

会議議事録

会議名	2020年度第1回福祉分野教育課程編成委員会
対象学科	介護福祉科
開催日時	2020年7月17日(金) 15:00~17:00 (2.0h)
場所	本校 505 教室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：戸嶋哉寿男委員（杉並定期巡回連絡会代表）、丸山泰一委員（社会福祉法人池上長寿園統括事業所長）、（計2名）</p> <p>② 本校委員：橋本正樹（校長）、岩上由紀子（介護福祉科学科長）、熊谷 崇（介護福祉科教員）中嶋純也（介護福祉科教員）、宮下明久（事務局長）、（計5名）</p> <p>③ オブザーバー：武石稔弘（医療秘書科教員）（計1名）</p> <p>④ 事務局：土屋瑠美子（参加者合計9名）</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：資料1：2020年度福祉分野教育課程編成委員会名簿、資料2：2019年度第2回福祉分野教育課程編成委員会議事録、資料3-1：前回委員会以降の主な経過報告、資料3-2：2019年度就職先一覧、資料3-3：2020年度校務分掌、資料3-4：2020年度2年次「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール、資料3-5：第32回介護福祉士国家試験合格の報告、資料3-6：2019年度特別講義等の実績、資料4：2020年度重点目標と達成するための計画・方法、資料5-1：2020年度学科運営計画、資料5-2：2020年度介護実習の日程、資料5-3：オンライン授業に関する報告、資料5-4：オンライン授業の実績、資料6：2020年度教員研修計画、資料7：2021年度カリキュラム</p> <p>② 当日配付：2020年度講義要項</p> <p>③ 回覧資料：2020年度学生生活ガイド、2020Challenge 就職活動ノート、2021年度入学案内書、2021年度募集要項</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認及び本日出席者の紹介（資料1）</p> <p>事務局より、資料1に基づき、本年度より委嘱した団体委員の戸嶋哉寿男委員を紹介し、引き続き各委員の紹介があった。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、新型コロナウイルス感染症が予断を許さない状況が続く中、本校においても卒業式、入学式の中止を余儀なくされた。新年度に入り、4月中に急遽オンライン授業の準備をし、5月の連休明けから双方向のオンライン授業を徐々に拡大、6月には一部分割クラス、分散登校により対面授業が始まり、7月からオンラインを併用しつつ、感染防止対策の先生から助言をいただき全面的に対面授業を開始した。福祉系の専門学校としては割と対応は早かったが、実習については見通しが立ちにくい状況である。ウイズコロナの時代にあって、学生には福祉の専門家として現状を正しく知り、正しく恐れるというスタンスで、卒業後、福祉の現場等でしっかりと働い</p>

てもらいたい。本日は、専門家の視点からのご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局土屋）

前回議事録（資料2）について、修正事項がないことを確認し、質問・回答の氏名等を削除の上、本校ホームページにアップする旨の発言があり、確認、了承された。

4. 2019年度第2回委員会以降の活動報告等（説明者：岩上学科長、橋本校長、熊谷教員）

資料3-1～3-6に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2020年度の重点目標について（説明者：橋本校長）

資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2020年度の学科教育と学科運営について

(1) 2020年度学科運営計画（資料5-1）（説明者：岩上学科長）

(2) 2020年度介護実習の日程（資料5-2）（説明者：熊谷教員）

(3) オンライン授業に関する報告（資料5-3）（説明者：熊谷委員）

(4) オンライン授業の実績（資料5-4）（説明者：熊谷教員）

担当より資料5-1～5-4に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明及び意見交換の詳細は別紙のとおり。

7. 教員研修について（説明者：岩上学科長）

資料6に基づき教員研修計画・実績について説明が行われ、確認、了承された。

8. 2021年度カリキュラムの報告（説明者：岩上学科長）

資料7に基づき報告が行われ、確認、了承された。

9. 次回日程、その他

新型コロナウイルス感染症への対策について意見交換が行われた後（詳細は別紙のとおり）、次回の日程について協議し、2月26日（金）15時～17時とすることが確認され、閉会した。

以上

2020 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 2019 年度第 2 回委員会以降の活動報告

○岩上学科長より資料 3-1～3-2 に基づき以下の報告が行われた。

(1) 就職内定の状況 (資料 3-1)

卒業生が全員就職し、内定率 100%。内定先は資料 3-2 のとおり。

(2) 在籍状況 (資料 3-1)

(3) 2020 年度校務分掌 (資料 3-3)

○橋本校長より資料 3-3 に基づき以下の補足説明が行われた。

・今回のオンライン授業は教務委員会を中心に行っている。

・授業、実習、学校行事等、今年度は変則的になると思うが柔軟に対応していきたい。

(4) 2020 年度 2 年次「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール (資料 3-4)

○岩上学科長より資料 3-4 に基づき以下の補足説明が行われた。

・このプログラムは 1 年の後期から実施されており、既に 6 回まで終了しているが、今年度は新型コロナの関係でまだ就職活動まで至っていない。

(5) 第 32 回介護福祉士国家試験受験の報告

○熊谷教員より資料 3-5 に基づき以下の補足説明が行われた。

・受験者全員が合格。

・介護福祉士資格取得の特例期間が、さらに 5 年間延びることになったので、2026 年 4 月に入学する第 30 期生から国家試験の一本化が始まる。

・今年度の国家試験において、外国人の場合、試験時間が 1.5 倍になるという情報が本日入った。

・今年度から養成校ごとに受験者数、合格者数、合格率を公表し、養成校全体の国家試験合格の底上げを図ることが決定している。

(6) 2019 年度特別講義等の実績

○熊谷教員より資料 3-6 に基づき以下の補足説明が行われた。

・昨年度実施された外部講師による特別講義の実績である。

・2 月に、ご自身が ALS の疾患を持つ方に来ていただき、事前に作成したメッセージを介助者が読み上げる形で講義をしていただいた。

5. 2020 年度の重点目標について (資料 4)

○橋本校長より資料 4 に基づき以下の説明が行われた。

① TPC の育成と強化

・知識伝達教育は、アメリカの大学などではノーベル賞級の学者の講義を YouTube で見た上で授業が始まる仕組み (反転授業) が一般的になっている。コロナ禍という事態もアクティブラーニングの推進のよい契機と捉え、一歩前進させていきたい。

② 学び直しの教育プログラムの開発

・本校の立地を生かし、夜間・休日の講座を充実させることで既卒者と社会人の学び直しの教育を引き続き考えていく。通学型だけではなく、オンラインを含めて計画していきたい。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・今は多様性の時代だが、一緒に仕事をしていく上では方向性は束ねないといけない。互いのコミュニケーションも含めて課題として取り組んでいる。

○次第4、5に対する企業等委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
・TPCという言葉は、普通にあるのか。	・TPCという言い方は本校独自だと思うが、同じような内容や似た表現はある。専門教育とは別に、社会人としての基本的なマナーを重視して人材を育てようということである。

6. 2020年度の学科教育と学科運営について

(1) 2020年度学科運営計画（資料5-1）

○岩上学科長より以下の補足説明が行われた。

- ・「多様な介護サービスが理解できるよう介護実習Ⅰでは、1つの法人が運営する施設に絞り、ローテーションで各事業所を回り、それぞれの特性を知る」の部分は、今年度は厳しい状況になっている。
- ・オンライン授業の理解度については検証しながら進めている。
- ・「学生・卒業生情報、就職先情報等の一元化を図る」の部分は、介護福祉科は割と卒業生が足を運んできてくれる。今年度は難しいかもしれないが、学科の交流会に卒業生にも参加してもらい、情報を得る機会がつかれたらよいと思っている。
- ・退学防止対策については、頻繁に個別面談を実施して状況を把握していく。
- ・その他の取組として、学生間の交流で新入生歓迎会、授業終了後のボーリング大会などを予定していたが、今はできない状況である。時間があればフィールドワークも入れていきたい。
- ・年間計画は中止や変更点が多い。個別面談は対面で行っている。見学実習は実施できていない。保護者会は後期で調整していきたい。7月に予定している2年生の在宅介護実習前の指導については、後期に特別講義を調整させていただきたい。

(2) 2020年度介護実習の予定（資料5-2）

○熊谷教員より以下の説明が行われた。

- ・1年生の介護実習Ⅰは、9月から3週間×4日＝12日を予定している。
- ・2年生の在宅介護実習は、家庭を訪問するのが難しい状況のため中止した。
- ・介護実習Ⅲは9月から10月までの23日を予定し、これに在宅介護実習4日を追加して27日となる。
- ・1年生の介護実習Ⅱは、本来翌年の2月～3月に実施するが、この時期は最も感染症が心配されるので前倒しでの実施を考えている。現時点では10月半ばから毎週水曜、金曜の週2日のペースで実施し、順調にいけば12月に終了する予定。

○企業等委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
・うちの施設も8月以降は全部の事業で実習の受入れをストップした。実習が実現できないときは、代替措置や経過措置が厚労省から出ているのか。	・東京都からはQ&Aという形で出た。期間の延長などをして実施することが大前提で、それが難しい場合は学内での演習を実施する。その場合は東京都に理由も含めて届出をすることになる。東京都のほうが厳しい印象がある。

<ul style="list-style-type: none"> ・特養はコロナ陽性者が出てても事業継続はしやすいので受入れやすいが、在宅は無理だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必死で実習施設を探している一方で、学生は本当に行っているのかという不安がある。学校としてしっかりと対策をしながら実施する方向ではいるが、状況によって変わる可能性はある。
--	---

(3) オンライン授業に関する報告 (資料 5-3)

(4) オンライン授業の実績 (資料 5-4)

○熊谷教員より以下の説明が行われた。

- ・オンライン授業は、具体的には以下の3つを組み合わせで実施した。

- ①資料配信型：インターネットを通じて事前に授業の資料や課題を配信し、それに取り組む。

- ②双方向オンライン型：Zoom を使用して双方向でリアルタイムに授業を行う。

- ③動画配信オンデマンド型：事前に作成した動画、レコーディングした Zoom の授業を配信する。

- ・事前のアンケートの結果、予想以上に学生側のネットやPCの環境が十分でなく、スマートフォンの4G回線を前提に考えた。通信制限を考慮し、双方向オンラインは40分程度とし、資料配信や後日動画で補う形で対応している。

- ・通信環境が十分でない学生には、モバイルWi-Fiルーターやパソコンを無償貸与するなどして対応している。

- ・オンライン授業のツールは主にZoomとGoogleのサービスを使用した。

- ・導入のスケジュールの詳細とオンライン授業の実績は資料のとおり。

○企業等委員からの質問・意見と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・双方向でないと単位が取れないというような制限はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間数を減らさないこと、課題提示の前後で教員からの指導があること、学生からの意見や質問に対して教員から回答があることが要件となっている。それをクリアすれば資料配信だけでも可能となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生のスマホの保有率は100%か。またパソコンの保有率はどのくらいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホは全員が持っていた。パソコンの保有率は全体で30%に達しなかった。 ・パソコンを持っていても家族と共有しているケースもある。パソコンやWi-Fiルーターの貸し出し件数は思ったより少なく、10台ぐらい。次年度はタブレット等を買わせるなど、スマホ以外で受けられるものを学校としても考えたい。 ・ソフト面の問題点としては、学生のITスキルに個人差があり、教員向けと学生向けにオンライン授業の手引を急遽作成して実施した。学生の反応がつかみにくいところが課題だと感じている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ITリテラシーは、留学生と日本人とで違いはあるか。 ・専任の先生だけがオンラインをされているのか。 ・現場もオンライン化されてきているので、学生のうちに慣れていくのはよいことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生のほうがパソコンに慣れている印象がある。 ・専任だけである。苦勞しながらやっているが、よい機会だったと思う。
---	---

7. 教員研修について

○岩上学科長より2020年度教員研修計画・実績について以下の報告が行われた。(資料6)

- ・予定が立たず、寂しい資料になっている。
- ・介養協の全国教職員研修会は11月に愛媛で開催される予定。
- ・本校の兼任講師の先生にコロナの正しい情報について講義をいただき、動画配信もされている。

8. 2021年度カリキュラムの報告

○岩上学科長より以下の説明が行われた。(資料7)

- ・2021年度から新規カリキュラムになる。
- ・人間関係とコミュニケーションをⅠとⅡに分け、30時間から60時間に変更している。
- ・介護の基本Ⅲにリスクマネジメント、介護の基本Ⅳにレクリエーションを設け、今までの介護の基本ⅣがⅤになっている。
- ・生活支援技術もⅦまで増やした。
- ・介護福祉事務は継続の予定。
- ・介護事務管理士技能認定試験を11月に任意で受験する予定。

9. 次回日程、その他

○新型コロナウイルス感染症の対策等について企業等委員から以下の発言があった。

- ・今は第2波に対する取り組みをしているが、面会などで外から入ってくるところが一番危ないので、入り口のチェック、3密の防止に注力して対応している。
- ・デイサービスセンターもスキップができないので楽しみがなくなっている。新しい形の在宅サービスを考えなければいけない。
- ・完全に在宅のサービスをしているが、用心して休むスタッフが出てきて負担は増えている。
- ・一時期マスクやゴーグルなど足りない物資があったが、最近は困っていない。
- ・業界としては数カ月で大きく変わった。デイサービスは軽度者の利用控えが増え、経営が成り立たなくなる中で不要論まで出てきたところがあった。
- ・デイに行かない分、訪問介護の依頼が増えたり、新規のショートステイを受入れない施設もあった。
- ・病院から退院してくる人に一番リスクがある。退院カンファレンスの場も持たないので、先が全く読めない中でのケアスタートとなり、現場の看護師などは混乱していた。

○委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・そのような状況の中でスタッフの方々のメンタルは大丈夫なのか。 ・連絡会や在宅の助け合いの動きはどうだったか。 ・在宅という意味でのデイサービスも含めて、関わりはどうか。 ・退院の話があったが、本当に行き先のない利用者はどのようにされているのか。 ・地域をまたぐ可能性もあるので、やってくれる事業所を探すしかないケースもあるか。 ・9月の実習に向けて、学校として何かやっておいたほうがよいものがあれば教えてほしい。 ・実習の巡回は控えたほうがよいか。 ・1年先の介護実習Ⅱは、週2を週3とか週4にして、スパンを短くしたほうがよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はメンタルも含めて大変だった。一方で、近隣の人が集まって施設の前で拍手をしてくれた。地域に向けて特養の重要性を証明できたことがうれしかった。 ・定期巡回連絡会のほか、居宅介護支援事業者連絡会、ケアマネの会、訪問介護事業者連絡協議会は機能が全部ストップしている。Zoomを使ったミーティングや研修が動き出した。 ・今は関わりが薄い状態である。 ・困っている人も増えてきているが、選ばざるを得ない。 ・今のところ地域内にあるので、ぎりぎり賄えている。年配の女性が多い訪問介護事業所などでは、ヘルパーさん自身が休職したり、辞めたりしているので、存続の危機に立たされている。若いスタッフが多い訪問介護事業所は身体介護が多いので、使命感の差もある。 ・実際出たときに、ここまでやっていたと言えることが大事で、私たちは体温を必ず記録している。 ・制限をするので生活エリアには入れないと思う。 ・実習が終わった後にどこかに集まるとか、施設以外で感染する可能性のあるような行動は控えるようはっきりと確認しておいたほうがよい。 ・短い期間にしたほうがよい。

<p>・コロナ禍において、パソコンのスキルなど、学生に勉強しておいてほしいことがあればお願いしたい。</p>	<p>・若い人はITリテラシーは高い。Zoom以外にもウェブを通じた対応に慣れているとよい。今、介護職に医療的なサポートのニーズが増えているので、医療的知識の必要性も高くなっている。</p>
--	---

○岩上学科長より、次回日程についてお諮りし、2月26日（金）午後3時から5時とすることに決定した。

以上